

生涯学習情報紙

発行：大和村教育委員会事務局・中央公民館

第343号



2022

7月

自然の家がやってきたin大和村&スモモフェ

6月12日(日)大和まほろば館に奄美少年自然の家がやってきました。村内外から160名が来場しました。今年は、梅雨の合間の曇り天気で、しゃぼん玉、ゴム鉄砲等が人気で、ひととき大きなしゃぼん玉が会場周辺を飛んでいました。当日は、スモモフェスタもあり、スモモ狩りを楽しむ家族で賑わいました。



しゃぼん玉を作る様子



スモモ狩りの様子

ソテツの受粉作業

6月16日(木)村教育委員会でソテツの受粉作業を行いました。梅雨のこの時期、ソテツの雄花、雌花がはっきり分かります。村民体育大会の「ナリ入れ競技」のソテツの実を確保するために行っています。収穫は10月頃です。



(しげき校長の大和見聞録)

集落の墓地で気づいたこと

去年、大和村内のいくつかの集落を実際歩いてみて、立地や景観等を見てきました。その時に気付いたのですが(全ての集落を見たわけではありませんが)、集落内にある墓地に下の写真のような非常に古いオレンジ色(もしくは黄色)の墓石がありました。このオレンジ色の石材は通称「山川石」と呼ばれ、薩摩半島南端の旧山川町付近にのみ産出する溶結凝灰岩(火山の火口からの噴出物が火砕流として平地に流れ出し、その後自らの高温で溶けてやがて冷えて固まってできた岩石)です。この山川石、見た目が美しく、のこぎりで切れるほど柔らかいのです。風化に強く、表面が長期間傷まないため、昔から鹿児島では石垣や墓石として用いられました。江戸時代には、島津家の歴代当主夫妻の墓石にも用いられているいわば高級石材です。今でも指宿市山川町の昔からの街角では、山川石で作られた壁や塀、あるいは家の前の門柱などを見ることができます。

私は、以前勤めていた瀬戸内町の集落の墓地でもこの墓石が見られたので、民俗学の専門家に聞いたことがあります。すると「江戸時代の薩摩藩と関係の深い人物の墓ではないか」ということでした。大和村にあるこれらの墓も、そのような人のものであると考えられます。そこから、この墓に葬られたのはどのような人物だったのかについて3つの可能性を考えてみました。

- ① 薩摩藩から派遣された役人が、現地で死ぬ覚悟を持って、墓石持参で大和に赴任してきた。
- ② 薩摩藩から派遣された役人の死後、周囲の人達が薩摩の山川に墓石を注文して取り寄せた。
- ③ 島出身の役人(直川智もその一人です)や有力者で、薩摩とつながりの深い人の墓であった。

いずれにしろ、交通手段や医療が未発達であった江戸時代、相当な覚悟をもって薩摩の役人達は奄美にやって来たのではないのでしょうか。その名残が残っているように感じた集落の墓地の風景でした。



毎年7月は、「青少年の非行・被害防止全国強調月間」

毎月19日は『育児の日』、第3土曜日は『青少年育成の日』、第3日曜日は『家庭の日』